



「非行の練習問題」

福島県中央児童相談所相談課長 内山 清一

児童相談所や児童福祉施設の職員を対象とした研修会で、そのプログラムの手始めに『非行の練習問題』という演習をすることがある。(問題解決の仕方に、その人の個性や価値観が如実に現れ、型通りではない自己紹介にもなる)

その演習というのは、こうである。

「ある教育熱心な中学教師がいた。彼のクラスには二人の問題児がいた。Aは非行少年である。Bは足が不自由(そんなに重大な障害ではない)で、そのため劣等感が強く、朝礼や体育など集団活動には参加しなかった。

先生はAがクラスで適応できるように、級友たちには友達になってもらうようにしたり、Bには積極的に集団に参加するよう働きかけた。

努力の甲斐あって、体育の時間、Bは参加する意向を見せ、整列している皆の前を通過して、自分の位置まで歩いていこうとした。その時、Aが足を出して引っ掛けたため、Bは転倒した。

あなたが教師ならAに対してどういう態度をとるか。」

演習でのプロセスは、まず、各自、課題を読んで考えをメモし、次に、5、6人の

グループ・ミーティングを実施し、その上で、各グループがその討議の内容を全体へ報告し、最後に、各自のふりかえりをする事になっている。

このような事例に出会うことは、日常茶飯事ではないにしても似たようなケースに出会う可能性はあるだろうと思われる。もしも先生方がこうした場面に出会ったとしたら、その時どのような対応をされるであろうか。しばらくの間、お考えいただきたい。

「問題」の状況設定は、大まかであるため、多くの読み取り方ができ、その対応によっては、NHKの「中学生日記」の素材にでもなるような、いくつものドラマが展開するだろうと思われる。

参加者から、様々な対応策が出された。

1. 怒って、ひっぱたく。
2. Aのやった結果を見させて、Bを起こす。
3. Aを別室に連れて行って、理由を聞く。
4. そのまま経過を見守る。
5. 叱った上で、校庭5周の罰マラソンをさせる。
6. 理由を聞き、Aの気持ちを引き出す。Bへの理解を持たせる話し合いをする。